グリーン えっせんす

第25号
2008.3

社団法人　千葉県緑化推進委員会

特集

サミット記念 地球の環境は緑が救う！

今年は日本でサミットが開催されます。そこで今号ではサミットを記念し、環境問題とこれに関連する緑化の推進について考えてみようと思います。

▲サミット会場となるザ・ウィンザーホテル洞爺

北海道洞爺湖サミットへ向けて

日本における5回目のサミットが、今年7月7日（月）～9日（水）、北海道のザ・ウィンザーホテル洞爺にて開催されます。この「北海道洞爺湖サミット」（G8）では、国際的な諸問題が話し合われますが、大きなテーマの一つは環境・気候変動をはじめとする「地球環境問題」です。世界が注目する環境サミットで、未来へ向けた解決策が見出されるものと期待されています。

さて、7月のG8に向け、3月からはすでに関連会合がスタートしました。その先陣を切ったのが千葉県での会合です。日本、アメリカ、ヨーロッパ、そして中国など、温室効果ガスの主要排出国が温暖化対策を議論する「地球環境に関する閣僚級会合」（環境G20）が、3月14日（金）～16日（日）、幕張メッセ国際会議場で行われたのです。

また千葉県では、この環境G20の千葉県開催に先がけ、G20ちば2008を統一フレーズに記念事業を開催。千葉県の取り組みを国内外に発信しました。そのスタートは昨年８月、県立千葉女子高校で開催されたパネルディスカッションでした。その後、シンポジウムや講演会、セミナーなどをほぼ毎月開催。３月8日（土）、9日（日）には「G20ちば2008記念国際フォーラム」が幕張メッセ国際会議場で開催され、約460人の参加者が真剣に耳を傾けました。

このフォーラムにはみどりの少年団である大多喜町立老川小学校の皆さんも参加されました。50年後の未来の老川や千葉の姿についてディベート的討論を行い、そこで出された意見を基本構想にし、個々の未来のイメージを詩とイラストで表現。このイラストを基に、海・紅葉・田・森・家畜・川・夜・人と生き物など8つのエリアを考え、一つの絵にまとめました。この特大絵画(画題「生き物いっぱいワクワク未来ちば」、サイズ153cm×350cm)の展示や詩の発表、さらにはこの詩に音楽活動家の松尾貴臣さんが曲をつけ、発表(合唱)されました。

また当委員会は、千葉県が行う放置竹林の拡大防止モデル事業で伐採した竹から、東京電力グループが竹繊維のサンプルを製作し、伐採竹の利活用を検討するという協働プロジェクトに協賛。この竹繊維を用いて製作されたハンカチを活用し行った、同フォーラムにおける森林環境の保全・再生、地球温暖化防止に関するＰＲブースには多くの方が足を止め、関心を寄せていただきました。

ほかにもみどりのボランティア活動やみどりの少年団活動などG20ちば2008に関連づけ積極的な事業の取り組みを行ってきました。

G8

Group of Eight（主要8カ国首脳会議）の略。一般的にはサミットと呼ばれます。サミット（Summit=頂上）とは首脳の地位を山頂に例えたもので、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシア8カ国の首脳及びEUの委員長が参加して毎年開催される首脳会議です。

緑の役割

ところで、地球環境問題は「地球温暖化」、「酸性雨」、「オゾン層の破壊」、「森林の減少」、「有害廃棄物の越境移動」、「砂漠化」、「野生生物の保護」、「海洋汚染」、「発展途上国の公害」など、種々の問題を含んでいます。

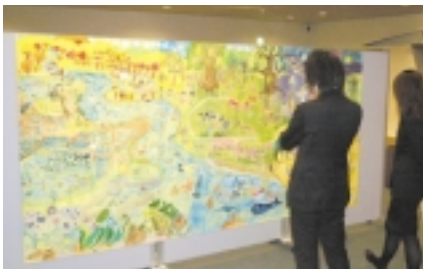
これらの問題解決の一つとして、緑化の推進に大きな期待をされているのはご存知の通りです。緑は大気中の二酸化炭素を吸収し、温暖化を緩和するだけでなく、砂漠化も防ぎます。また植林活動は伐採された森林を復元し、森林を豊かにします。その結果、陸の生物だけではなく海の生物も絶滅から逃れることができます。というのも、森、山、川、海は、地球における壮大な水の循環システムを形成しているからです。木がなくなると養分に満ちた水が失われ、川は、浄化力を失います。そして海は汚染され、海の生物の豊かさが失われてしまうのです。緑は地球を健全に保つ大切な役割を担っているのです。

地球環境を守る活動は一人ではできませんが、一人から始まるのです。

地球は本来あるべきバランスを少しずつ失いかけています。その地球を、緑を大切にすることで救うことができるのです。最近、クリーン開発メカニズムという言葉がよく聞かれます。これは、先進国と途上国が共同で温室効果ガス削減プロジェクトを途上国において実施し、そこで生じた温室効果ガス削減分の一部を先進国がクレジットとして得て、自国の削減に充当できるという仕組みです。熱帯雨林の復元を目指した植林事業などがその例です。結果として、二酸化炭素を削減（または吸収）するとともに、途上国においては環境対策・省エネルギー技術等の移転促進ができますので、両者にとって相互に利益のあるウインウインの状況となります。そのようなことから、今後注目されるシステムと考えられています。でも、国レベルでなくても、個人でも同じようなことができるのではないでしょうか？ここで国民参加の森づくり運動に目を向けてみます。その中でも最も身近な参加方法。そう「緑の募金」を例にとってみましょう。募金をされたことで緑化を進めることになり、募金した人には次世代につながる環境保全がもたらされ、両者がウインウインの状況になる…。まさに個人的クリーン開発メカニズムといえるのではないでしょうか？

環境問題を改善するには、地球レベルで取り組む必要があります。そして同時に、私たち一人ひとりが問題に向き合う必要があります。緑を大切にすることは、一人ひとりにできるとっても身近なことなのではないでしょうか？

「かっての日本人は思慮深い人々でした。狭い国土、急峻な山、降り来る雨はすぐに海まで流れてしまいます。しかし、山神に守られた深い原生林がそれを蓄え、田の神のために整備された田圃がしっかりと雨水を溜め、それを静かに静かに地下水にする。私たちの祖先は神という存在で自然・環境を守る叡智を持っていました」。これは、山本東次郎氏が「狂言のことだま」という本の中で、能狂言「翁・三番叟」の舞の心を説明したものです。生きる喜びを形にした狂言には、持続可能な循環社会への思いが息づいています。私たち日本人はこれまで長い間、自然や緑をごく当たり前のように大切にしてきたのです。これからも、緑や自然を愛することで、地球環境を守ろうではありませんか？



G20ちば2008記念国際フォーラムと委員会の関連活動の様子

老川小学校製作の特大絵画

ミニ特集1 緑の募金事業の紹介

わたしの街のみどりづくり事業

千葉県の緑の募金は、県内全域を対象にした事業に活用される一方、募金協力者にいちばん身近な場所に、バランスよく事業還元する方針をとっています。それが「わたしの街のみどりづくり事業」です。おもに市町村という単位でそれぞれの重点施策や地域の特色、ニーズに添った緑化の推進、森林整備に活用されます。このため、植樹や既存樹の保育をはじめ、さまざまな内容に対応できる柔軟性をもった事業です。今回はいくつかの事業ケースをご紹介したいと思います。

◆公共施設等への植樹

緑化の原点でもある植樹です。植樹事業はわたしの街のみどり事業でも最も多くを占めています。また千葉県の植樹活動は、都市圏ならではの環境緑化が多いことが特徴です。（写真：茂原市）

◆緑にふれあう事業

緑にふれあうことで、緑の役割や重要性をあらためて実感することは多いのでは？緑にふれあう機会の創造は、普及活動の一環として大きな意味を持ちます。ご紹介の例はツリークライミング体験講座です。（写真：船橋市）

◆森林の整備

緑の募金には森林の整備を推進する理念がありますが、森林の整備には知識や技術等、専門的なノウハウが必要で、容易なものではありません。森林組合などのプロによる整備やボランティアによる整備が考えられます。写真はボランティアの育成を目的とした事業（研修会等）の模様です。（写真：四街道市）

◆緑化を推進するための施策

ユニークな事例の一つです。緑化を推進するためには、その方法を知るための手段をまず整えなければなりません。たくさんの市民が利用する図書館に「緑化の手引き」となる参考図書を備えたのです。図書には募金を活用したことが明記されています。（写真：富里市）

◆生活の安全を守る取り組み

緑の公益的機能を活用・推進する事例です。風砂の強い地域では、地域市民が一丸となって、この被害を和らげるための植樹が行われています。地域の特徴が最も表れた事業の一つです。（写真：八街市）

◆既存樹の保育

木は植えられたものの、悲しくもその後をおろそかにされる例が多いものです。サクラ、特にソメイヨシノ種に「てんぐ巣病」という病気がまん延しているのをご存知でしょうか？写真は対策を講じ、市町村の大切な桜の名所を守ろうという事業です。（写真：鋸南町）

緑の募金は、このほかにもいろいろな形で地域に還元されています。皆様からお寄せいただいた募金が、幅広い緑化事業に、また地域にマッチした形で使われていることをご理解いただけましたら幸いです。

ミニ特集2 What 'up? ちょっとひと息…

みんなの情報に活用してね。

みどりのニュースや知識をアップしてみました。

千葉瑞穂みどりの少年団が、全国の代表として活動発表大会に出場！

千葉市花見川区瑞穂を拠点に、地域型少年団として活躍する千葉瑞穂みどりの少年団が、熊本県で開催された第31回全国育樹祭の併催行事として行われる全国緑の少年団活動発表大会に出場しました。全国から推薦された優良28事例の中から、大会への出場権を得た5団の一つとして堂々の発表を遂げ（テーマ：新しい街をみんなのふるさとに！）、みどりの奨励賞を受賞。翌日の育樹祭では農林水産大臣より苗木を受領しました。

この木、なんの木？日立の樹

「この木、なんの木？気になる木…♪」。テレビのCMソングでおなじみのこの歌。1973年に初めて登場してすでに35年になります。初代の樹はアニメでしたが、その後はマンゴー、バニヤンツリー、カリフォルニアオークなども登場しました。でも一番多かったのが9代目、現在の樹でもあるモンキーポッド。サルがその実を好んで食べたことから付いた名前です。ポッドというのはエンドウ豆などの「さや」を意味する英語。ネムノキに似た花を年に2回、5月と11月頃咲かせます。またネムノキと同じように光によって葉が閉じたり開いたりしますので、俗にアメリカネムとも呼ばれています。また日の陰る雨降りの日には葉が閉じることから、レインツリー（雨降りの木）という異名もあります。おもな産地は中南米、西インド諸島など。現在テレビで紹介されているモンキーポッドは、樹齢約130年、高さは約25メートル、幅は約40メートル、胴回りは約7メートルです。ハワイ州オアフ島にある「モアナルア・ガーデンパーク」にあります。ここは個人所有の公園で無料開放されていましたが、昨年、売却または州政府に移管される計画が持ち上がりました。同時に日立の樹もピンチになりかけましたが、日立は公園を管理している地元企業と独占的撮影権を締結。無事、これからも日立の樹として存続できることになりました。

楷の木

書道の「楷書」のように縦、横にまっすぐ伸びる枝が特徴の木です。うるし科の落葉樹で、和名はナンバンハゼノキまたはトネリバハゼノキといい、イチョウと同様、雌株、雄株の区別があります。中国の原産で、儒学の祖・孔子との縁が深く、歴代文人が愛したことから「学問の木」とも言われています。また科挙合格者にはこの木で作った記念の品を与え名誉を称えたことから「合格祈願木」とも言われています。日本に初めて移入されたのは大正4年（1915年）で、当時の農商務省林業試験場初代場長・白沢保美博士が中国を訪れ、孔子の墓所から種を採取し育苗されました。その後、国内の孔子や儒学にゆかりのある学校(湯島聖堂、足利学校、閑谷学校など)に寄贈されました。なかでも風土に合っているためか、岡山県の閑谷学校の楷の木が最も大樹に育っているようです。岡山藩主が開校した日本で最初の民間学校であるこの閑谷学校。その中心にある聖廟の両脇に2本の楷の木が植えられ、どちらも胴回りが2メートル、高さが約13メートルまで育っています。晩秋には聖廟に向かって左側が深紅色に、右側が黄色がかった淡紅色に紅葉し、大変に見ごたえがあります。

写真提供／日立製作所
岡山県備前市

グリーンキャンパス Part.25

千葉市立稲浜小学校

緑自慢

8年前、第16号でご紹介した稲浜小学校のビオトープが、昨年秋、リニューアルしました。今回は、その取り組みについてご紹介します。

現在では、かなりなじみ深くなりましたが、8年前はまだまだ珍しい存在だったビオトープ。稲浜小学校はそんな時代にいち早く、教育の一環としてビオトープを校内に作りました。当時を振り返ると東京湾の埋立地にある同校にとって、環境や自然や生命を学ぶ場として大きな期待が込められていたようです。ところがその維持管理は想像以上に難しく、水は枯れ、杭は朽ち、次第にビオトープとしての面影はなくなりかけていました。そこへ着任して来られたのが藤﨑 校長先生でした。

「せっかくのビオトープ、なんとか修復できないものか」。実は着任前から稲浜小学校のビオトープが気になっていた校長先生、傷みの激しい現状をみて、どうにかしたいという思いが胸に沸き起こったそうです。そんな時、緑の少年団活動を通じ、交流ある当委員会から届いた公募事業の情報に目が止まりました。緑と水の森林基金「学校環境緑化モデル事業」がこのビオトープ再生の助成対象になるのではないかというアイデアが持ち上がり、結果この構想は見事、具体化することになったのです。参考までこの「学校環境緑化モデル事業」とは、コンビニエンスストア・ローソン店頭の「緑の募金箱」に集まった募金が（社）国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」に寄附された後、基金事業の一つとして、ローソンの意向である「学校の緑化等」に役立てられているものです。

完成式典の様子。後方にはソーラーパネルも見える

さて、そこからは驚くほどの集中力で作業が進められました。助成金を有効に活用するため作業の大半は校長先生をはじめとする関係者の手で行われたのです。真夏の炎天下でも、公務の合間を縫ってユンボを運転し、汗にまみれながら毎日毎日作業をしました。「大学生時代に工事作業のアルバイトをしていたのですよ」。腕に覚えのある校長先生の見事な姿につられ、子どもたちや地域の人々もお手伝いして下さったお陰もあり、わずか1年足らずでビオトープは再生したのです。しかも既存の池の修復だけに終わらず、さらに拡張され、以前の池との間を小川が流れています。そのうえ、エコロジーと経済性に最大限配慮した「ソーラーシステム」を電力源とするポンプで、水が自動的に循環するようになっています。今度は池が枯渇することもなさそうです。

子どもたちは池や小川を遊びの場としながら、自然の動植物からいろいろなことを学んでいます。さらに、この取り組みを先生たち全員でまとめた論文は、ソニー科学プロジェクト事業の努力賞を受賞。児童、職員、父兄、地域の人々など、たくさんの人のチカラが集約した取り組みとして大きな成果を収めました。でも一番の成果は子どもたちの変化です。「おたまじゃくしじゃないか？あれ・・」。好奇心の芽が大きくふくらんでいます。

このビオトープをはじめ稲浜小学校のなかで大切にされてきた自然環境が代々受け継がれ、同校の環境を大切にする姿勢や活動が将来に渡り発展していくことでしょう。

オススメします。この本

「火のある暮らしのはじめ方」
編者／日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン実行委員会

七輪、囲炉裏、ペレットストーブ、ピザ窯、薪風呂など。火を使う調理道具や暖房器具、魅力的なライフスタイルなどを、ふんだんに写真を使って楽しく紹介している。暖炉や薪ストーブの前には知らず知らず人が集まり、かまどや薪窯で調理された料理は、誰もがおいしいと感じるもの。ハウツーだけではなく、火のもつ不思議なパワーから、日本の文化へと展開する一冊。

農山漁村文化協会　1,500円

「100万本の海の森」
編者／タイ・マングローブ植林実行委員会

笑顔がささえた十年、千人、百万本の話。海水や泥の中でも育つマングローブは、現地の自然環境にいろいろな恵みをもたらす。が、近年、エビ養成池の造成や燃料利用のための伐採がすすみ、危機的状況に。そこで活躍したのが日本からのボランティアの面々。参加者の声を交え、マングローブ植林のこの十年をテンポよくわかりやすく紹介している。

北星堂　2,000円

上記の本、「火のある暮らしのはじめ方」、「100万本の海の森」をそれぞれ1名の方にプレゼントします。ハガキに、希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、（社）千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ右下参照。締め切りは9月末日（当日消印有効）。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

企業の中の緑

京葉ガス株式会社
（市川市）

京葉ガスは、千葉県北西部（市川市、松戸市、鎌ヶ谷市、浦安市の全域と、船橋市、柏市、流山市、白井市、習志野市、我孫子市の一部地域）の約82万軒の家庭や企業、車などに天然ガスを供給している企業です。社員数は現在920名。石油に比べ二酸化炭素の排出量が少ない天然ガスを供給していることや、エコウィルなどの商品を提供していることから、環境志向の高い企業としても注目されています。

平成17年、同社は環境保全活動の一環として、本社に隣接する研修センターの屋上を緑化しました。屋上緑化は、特に都市部ではヒートアイランド現象を減少させる効果があるとされています。屋上緑化を行ったことで、空調負荷が減少した実感はまだ少ないとのことですが、以前は屋上に上がる人は少数に限られていたものの、緑化してからはランチタイムなどにたくさんの社員が公園感覚で利用するようになったとのこと。社員の交流や気分転換の場として大いに役立っているようです。

約260平方メートルの屋上には芝生、花壇、低木ゾーンのほか、ウッドデッキや遊歩道、ベンチも設けられました。花壇のゾーンには季節の草花のほか、野菜なども植えられ、収穫祭は社員の子どもたちも交えての楽しいものとなりました。工事にあたっては技術研修センター技術開発グループが中心となり、自動的に草花に水やりをする自動灌水システムや、好熱菌というものによる土壌改良技術も導入し、試験フィールドとしても活用しているそうです。

屋上緑化のほかにも緑の取り組みとして、柏市の新別館ビルの「緑のカーテン」もご紹介しましょう。ホームサービス部が中心になり、海苔の網を利用し、ヘチマやゴーヤなどを栽培しました。室内を夏の強い太陽から守り、室内温度を調整します。収穫した野菜は同社が開催する料理教室の材料にも利用され、お客さまからも「かわいい花が咲くのね」「立派に実がなったね」「朝顔が見事だね」などと、たくさんの反響があるそうです。花が咲き、実がなり、室内は涼しく、収穫は教材となり、お客さまからも喜ばれる…。充実した取り組みになっているようでした。

このほかにも、水を使用する湿式シュレッダーによる紙の再利用法の実践、エコオフィス活動、チームマイナス6%への参加など、環境を優先したさまざまな活動を実践しています。さらに今後は、出張授業で環境についてもふれるなど、計画がいっぱいとのこと。エネルギーのプロとして、ますます注目される立場ですが、意欲いっぱいの姿勢に安心と期待がふくらみました。

（右）屋上緑化された研修センター

（下）柏市の新別館ビルでは緑のカーテンも

森の名手・名人

（社）国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを活かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年、千葉県から2人の方が名手・名人に選ばれました。

五十嵐秀夫さん（印旛郡本埜村・57歳）
〈森の恵み部門〉

キノコ原木としてあまり用いないカシ、シイ、クリ、シデ、ケヤキ、エノキ、サクラ、アカメガシワなど多様な樹種の枝条等まで無駄なくすべて利用し、それぞれの樹種の適応した複数種のキノコを栽培するという技術は、地球温暖化防止の一助ともなっている。森林ボランティアを対象とした講習会の講師を務めるほか、学校給食にも提供し、食育にも貢献されている。

扇割敦男さん（南房総市・65歳）
〈加工等部門〉

安房郡市一帯の森林を対象に、45年間の長きに渡り林業の運搬集材の第一人者として活躍。地形、傾斜、材の種類、樹高等を考慮し、市場の動向を見据えたはい積をするため、山の荒廃を最小限にしている。また林業災害の防止、普及、後継者の育成等にも尽力。教育の森での講習会や子どもたちの体験指導を行っているほか、地域への貢献も大きい。

緑の募金でふせごう地球温暖化！春季・緑の募金にご協力ください

平成20年度　緑の募金運動
■目標額3,600万円

3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受付けています。

地球温暖化防止をはじめとする現代におけるみどりの役割をご推察のうえ、各種緑化・森林整備推進のため、県民の皆様のご理解と暖かいご支援をお願いいたします。

◇

平成19年度の募金総額は本県では最高額となる36,813,370円に達しました。お寄せいただいた募金は、学校や公園等の公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、また森林ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。また、その一部は世界規模での緑化や森林の整備にも役立てられています。

平成19年度公共施設等の環境緑化事業を実施しました

(社)ゴルファーの緑化促進協力会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記5ヶ所の公共施設などに植樹を行いました。

市原市	市原スポレクパーク	クスノキ6本
松戸市	国分川	ソメイヨシノ9本
香取市	市道瑞穂48号線	オオシマザクラ28本
匝瑳市	匝瑳市野外活動施設	ヤタイヤシほか21本
白子町	西部幹線排水路	シダレヤナギ70本

白子町みどりの少年団が天皇陛下ご下賜金植樹事業を実施

19年度、白子町内3小学校と1中学校で組織する「白子町みどりの少年団」が結成されたことを記念し、同団ではカワヅザクラほか8本の記念植樹を行いました。これは天皇陛下ご下賜金による植樹事業として実施されました。

国土緑化運動ポスター原画コンクール展示会のお知らせ

平成19年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。次代を担う子どもたちの緑や自然に対する思い・メッセージにあふれた素晴らしい作品の数々をどうぞご覧下さい。

本年度は過去最多の応募数、12,429点をいただきました。また、当県推薦作品が全国コンクールでも入賞するなど極めて優秀な成績を修めています。

当コンクールは平成20年度も実施します。たくさんのご応募をお待ちしております。

期間	場　　所	展示作品
4/15(火)～4/22(火)	千葉市中央区市場町1-1「千葉県庁19階県民展示コーナー」※土、休日は除く	●特別賞●特選の計36点
5/10(土)～5/18(日)	木更津市中央1-4-6「千葉信用金庫 中央支店」※土、日も窓口営業(10:00～16:00)	●特別賞の計12点
5/21(水)～5/30(金)	千葉市中央区中央2-4-1「千葉信用金庫 本店」※休業日は除く	●特別賞の計12点
6/10(火)～7/3(木)	印西市原山1-12-1「県立北総花の丘公園花と緑の文化館内」	●特別賞●特選●入選の計72点
7/14(月)～8/7(木)	柏市柏の葉4-1「県立柏の葉公園センター内」	●特別賞●特選●入選の計72点

＊会場等の都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認下さい。

表紙の絵

表紙の作品は平成19年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、中学校の部、委員会会長賞を受賞した、茂原市立南中学校1学年鵜沢遥さんの作品です。

グリーンえっせんす　第25号
2008年3月31日発行
発行／(社)千葉県緑化推進委員会
URL http://www.c-green.or.jp/
〒299-0265　袖ケ浦市長浦拓２号580-148
TEL.0438-60-1521　FAX.0438-60-1522
印刷／凸版印刷(株)　TEL.043-350-5611